

「広島市幼児教育・保育ビジョン（素案）」に対する市民意見募集の結果について

1 募集期間

令和元年12月25日（水） ～ 令和2年1月24日（金）

2 募集方法

- (1) 広島市ホームページに募集記事を掲載
- (2) 広報紙「ひろしま市民と市政（令和2年1月1日号）」に募集記事を掲載
- (3) 保育企画課、教育企画課、各区保健福祉課（東区は福祉課）及び公文書館に閲覧・配布用資料を設置

3 受付方法

窓口への持参、郵送、ファックス、電子メール及び広島市ホームページの応募フォーム

4 意見の件数

639件（332人）

5 意見への対応状況

意見への対応	件数
ア 意見の趣旨を広島市幼児教育・保育ビジョン（案）に反映させるもの	1件
イ 意見の趣旨が既に広島市幼児教育・保育ビジョン（素案）に盛り込まれているもの	15件
ウ その他のご意見・ご要望	623件
計	639件

6 意見要旨等（件数が多いため、同趣旨の意見が複数出されたものについては、主な意見を記載しています。）

(1) 意見の趣旨を広島市幼児教育・保育ビジョン（案）に反映させるもの【1件】

ア 幼児教育・保育の一体的な質の向上に関すること【1件】

ビジョン (素案) ページ	意見要旨	説明
2、11	<p>広島市の子どもにどのような育ちをしてほしいのか、どのような力をつけてほしいのかについて、明確に方向性が示されていない。</p> <p>広島市が目指す「質の高い幼児教育・保育」について、「遊びを通しての学び」の大切さ、「主体的で深い学び」、「非認知能力」、「生きる力」を育む保育を盛り込むなど、子どもの育ちにおいて何を重視するのか、今一度検討されたい。</p>	<p>子どもの育ちに関する方向性については、「3 課題解決に向けた基本的な考え方」において、幼児教育・保育の一体的な質向上に当たっての方向性として、「子どもが主体性や自立性、社会性を身に付け、心豊かな大人に成長することができるよう、一人一人の子どもが有する様々な能力を引き出しつつ、何事にも自己肯定感を持って自ら考え取り組む姿勢を育むことに向けた取組を進めてい」く旨を明記しました。</p> <p>また、質の高い幼児教育・保育については、「1 策定の趣旨」において、「乳幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎が培われる重要な時期であり、全ての子どもに対して、遊びや生活の中で、将来の学びにつながる質の高い幼児教育・保育を行う必要があります」と記載しており、ご意見の趣旨についてはこの中に含んでおりますとともに、「2 本市の幼児教育・保育の現状及び課題」のうち「幼児教育・保育の重要性」において、「日々の生活、中でも子どもの主体的な活動としての遊びを通して、子どもたちがこれらの資質・能力（『知識及び技能の基礎』、『思考力、判断力、表現力等の基礎』、『学びに向かう力、人間性等』）を一体的に培っていけるようにすることが必要」な旨を明記しました。</p>

(2) 意見の趣旨が既に広島市幼児教育・保育ビジョン（素案）に盛り込まれているもの【15件】

ア 専門的な支援を必要とする子どもに対する支援に関すること【15件】

ビジョン (素案) ページ	意見要旨	説明
12	<p>幼児期から障害のある子どもとない子どもが共に生きることを生活の場で経験することは、共生社会をつくっていくためにとっても重要な事であり、幼稚園・保育園において多くの障害のある子どもを受け入れられるようにしていくべき。その際には、公立園だけでなく、私立園でも積極的な受け入れができるよう支援をお願いしたい。</p> <p>特定の園に、専門的な支援を必要とする子どもの受入の役割・機能を集中させるのではなく、どこの園でも受け入れられるようにすべき。</p>	<p>発達障害児など専門的な支援を必要とする子どもについては、公立・私立を問わず受入れを行ってきており、今後も発達支援コーディネーターなどの研修を通じて人材育成に努め、受入体制を充実してまいります。</p> <p>また、医療的ケア児など特に専門的な支援が必要な子どもについては、私立園での受入時には市として支援を行うこととしています。本ビジョンは、専門人材の確保の問題などにより受入開始までに時間を要することがあるため、「円滑な受入が可能な体制」を公立園を中心として整備していかうとするものであり、公立園以外の園での受入れをなくそうとするものではありません。</p>

(3) 其他のご意見・ご要望【623件】

ア ビジョン全般に関すること【36件】

ビジョン (素案) ページ	意見要旨	説明
1、9	<p>少子化が進むことを前提にしてビジョンを策定するのではなく、広島市として少子化対策に取り組むことが先ではないか。</p> <p>子どもを生み育てたくなるようなビジョンにするべきではないか。</p>	<p>これまでも少子化対策については、「広島市子ども・子育て支援事業計画」等に掲げる事業を中心に組み立てており、今後も着実に進めてまいります。</p> <p>その一方で、本ビジョンは「1 策定の趣旨」に記載しておりますように、近い将来、幼児教育・保育の需要が減少に転じることが予想されることを踏まえ、幼児教育・保育の一体的な質の向上を図るとともに、長期にわたって持続可能な提供体制の構築をしていくため、基本的な方針として策定したものです。</p>

イ 幼児教育・保育の一体的な質の向上に関すること【2件】

ビジョン (素案) ページ	意見要旨	説明
2、11	<p>幼児教育は未来を担う子どもたちを育むために重要であるので、きめ細かな施策を実施してほしい。</p> <p>質の向上のために、認可保育園、認可外保育園を問わず研修の機会を増やすべき。特に認可外保育園は、なかなか研修に参加できない。まずはそういったところから取り組んではどうか。</p>	<p>頂いたご意見も参考としながら、実施方針を検討してまいります。</p>

ウ 延長保育や一時預かりなどのサービス提供に関すること【5件】

ビジョン (素案) ページ	意見要旨	説明
11	<p>保護者ニーズに応えることを最優先に、延長保育等の「保育サービス」を充実させることが、子どもにとっての最善の利益と反していることに不安を抱いている。今一度、保育時間の適正利用の推進や週5日登園児の保育料減額など、広島市においても、保育現場の実態や保育者の立場、長時間預けられている子どもの姿を十分確認してから、保護者のニーズに応えるようにしてほしい。</p> <p>P11に「保護者ニーズに柔軟に対応してきている私立園」と記載してあるが、公立園も柔軟に保護者のニーズに対応している。</p>	<p>「父母その他の保護者が子育てについての第一義的責任を有する」という基本的認識を前提として、子どもの心身の健やかな成長と、保護者の就労と子育ての両立等に向け、子どもが必要な保育を受けられるよう取り組んでまいります。</p> <p>公立園においても、保護者ニーズに対応してきているところです。しかし、公立園には全ての園が同じようにサービスを提供するという公的施設としての特性があるため、公立・私立で比較した場合には、独自の理念・方針に基づいてサービスを提供可能な私立園の方がより柔軟に対応してきている旨の認識を記載しています。</p>

エ 外国にルーツを持つ子ども及びその保護者に対する支援に関すること【4件】

ビジョン (素案) ページ	意見要旨	説明
12	<p>すべての園で、外国にルーツを持つ子どもを受け入れられるようにすべき。</p>	<p>外国にルーツを持つ子どもについては、公立・私立を問わず受け入れを行ってきております。</p> <p>本ビジョンに記載した、公立のモデル園における先行的な取組とは、外国にルーツを持つ子どもを特定の公立園でのみ受け入れるという趣旨ではなく、この取組により蓄積したノウハウを外国にルーツを持つ子どもがいるすべての園に提供することにより、こうした子どもや保護者への効果的な支援が行えるようにすることを目的とするものです。</p>

オ 幼稚園・保育園等における子育て支援の充実に関すること【3件】

ビジョン (素案) ページ	意見要旨	説明
12	<p>福祉的なニーズのない保護者が、我が子を「自分ごと」として育てる責任があることを、より自覚できるような「親力向上」の機会を増やしていく必要性を感じている。保育者の資質を向上させて、保護者に子育てのアドバイスをすることも大切だが、それ以前に、親自身が「子育てにおいて第一義的責任を有している」という自覚を持って、子どもを心身ともに健やかに育てていけるよう盛り込んでいただきたい。</p> <p>乳幼児期は親子の絆、保護者との愛着形成が子どもの育ちのベースとなることを、「切れ目のない子育て支援」の柱として盛り込み、保護者が主体的に子育てをする大切さを発信してほしい。</p>	<p>子ども・子育て支援法を始めとする関係法律において明記されており、「父母その他の保護者が子育てについての第一義的責任を有する」という基本的認識を前提として、子ども・子育て支援は進められる必要があると認識しています。また、親自身は、周囲の様々な支援を受けながら、実際に子育てを経験することを通じて、親として成長していくものと考えています。</p> <p>今後もこうした考え方やご意見を踏まえて、全ての子育て家庭を対象に、いわゆる「親育ち」の過程を支援してまいります。</p>

カ 持続可能な幼児教育・保育の提供体制の構築に関すること【529件】

ビジョン (素案) ページ	意見要旨	説明
9、11	<p>少子化等を理由に、公立園の定員削減・統廃合をすることは許せない。保育の質の向上と持続可能な提供体制の構築のためにも、現在ある公立保育園・認可保育園の維持・拡充を基本として、ビジョンを見直すべき。</p>	<p>近い将来、幼児教育・保育の需要が減少に転じると予想され、この減少が続き、需要（入園希望者）が供給（定員）を下回るようになると、施設間の過当競争による私立園の経営悪化などが幼児教育・保育の質の低下につながる懸念があります。</p>
	<p>「策定の趣旨」において「今後の更なる少子化の進展により、近い将来には減少に転じることが予想され、いずれは現在の幼児教育・保育の提供体制やサービスを維持していくことが難しくなることが懸念される」とあるが、幼児教育・保育全体の需要の減少が、なぜ、現在の幼児教育・保育の提供体制維持の困難に結びつくのか。</p> <p>保育需要が減ったとしても、乳幼児期が生涯にわたる人格形成の基盤が培われる重要な時期であることに変わりないので、幼児教育・保育の提供体制やサービスについて、さらに発展させる必要がある。</p>	<p>こうしたことから、幼児教育・保育の一体的な質の向上と持続可能な提供体制の構築に取り組む中で、公立園は、私立園の取組支援や私立園では提供が難しいものの公益性の観点から実施すべき部分を担うとともに、幼児教育・保育の需要の減少に対応して定員削減や統廃合を行うことを基本としており、今後、地域ごとの需給状況の実情等を考慮した上で、具体的な実施方針を定めていくこととしています。</p>
	<p>現在、待機児があるなかでの公立園の定員削減・統廃合は、待機児の増加につながる。</p>	<p>公立園の定員削減・統廃合は、P13に「地域の将来を含めた需給状況の実情等を考慮し」とあるとおり、需要（入園希望者）が減少し、地域によっては供給（定員）を下回る状況が到来することを念頭に置いたものです。</p>
	<p>試算では、少子化が進んでも20年先の保育園児数の減少は約2,300人であり、現在の保育園数250園で平均すると1園あたり10人くらいしか減らないことになり、公立園の統廃合は必要ない。</p>	<p>なお、ご意見を踏まえ、「待機児童がいる地域においては、引き続き、需要に対応した私立園による受入枠の拡大などに取り組んでい」く旨を明記しました。</p>

キ その他のもの【44件】

ビジョン (素案) ページ	意見要旨	説明
	アンケート結果の詳細は公表しないのか。	アンケート結果については、幼児教育・保育ビジョンの参考資料として添付しています。
	<p>少子化により子どもの数が少なくなれば、同じ予算でサービスを充実・向上させることができるのではないかと。予算を維持し、向上・充実を目指してほしい。</p> <p>将来を担う子どもたちを行政の責任でしっかりと育てられるよう予算をつけるべき。</p> <p>他の自治体の見本となるよう子どもの施設を充実させてほしい。</p>	引き続き、必要な予算の確保に努めてまいります。
一	<p>子どもの教育について、IQテストを絶対視して子どもの将来や待遇まで左右するのは誤りである。社会性や学力をつけるため。寺子屋のような小人数教育を検討してはどうか。</p> <p>保育士の確保や離職防止のため、処遇改善に取り組むべき。</p> <p>保育の質の向上のため、配置基準を見直してほしい。</p>	今後、関連する事業について検討する際の参考とさせていただきます。
	<p>保育の質の向上を目的にしながら、公立保育園における会計年度任用職員制度導入による正規職員の削減は質向上と矛盾する。公立保育園における正規職員の削減は、子どもの安全や豊かな成長を保障できず、保育の質が低下する。</p>	<p>正規保育士の必要数の減少は、会計年度任用職員制度の導入を機に、正規保育士とフルタイム勤務の会計年度任用の保育士の役割分担を明確にした上で、クラス運営に必要な保育士を配置し、安定的に運営ができる体制を確保するよう見直しを行った結果であり、保育の質の低下につながるものではないと考えています。</p>